

エコアクション21

脱炭素社会・資源循環型社会の実現に向け、
自社活動の影響を可視化し、
マネジメント体制の基で活動を推進

エコアクション21は、環境省が平成8年に策定した環境マネジメントシステム(EMS)です。平成16年には認証・登録制度に改定され、平成21年には、より多くの企業に取組が広がるように「エコアクション21ガイドライン2009年版」がスタート現在では2017年版が運用されています。

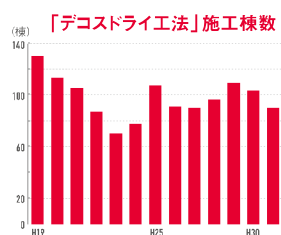
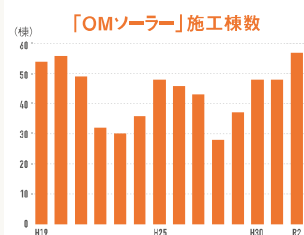
安成工務店は平成19年よりデータ管理を始め、認証を受けたのは平成20年の12月でした。当初は、各事業所の「電気」「ガソリン」「水道」についてのみの目標管理でしたが、現在ではそれに加え「産業廃棄物」「OMソーラーシステムの搭載数」「デコスライ工法施工棟数」を管

理指標に加えて事業を行っています。

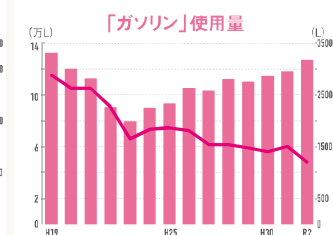
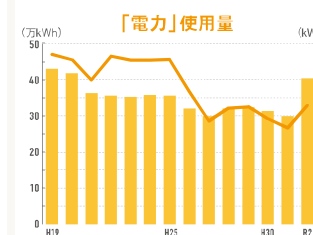
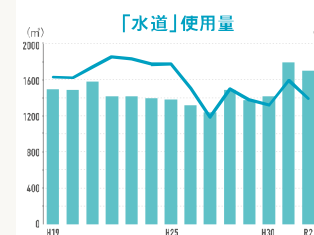
「OM搭載数」は太陽熱を利用するパッシブソーラーシステムで1棟あたり1.1t/年のCO₂削減が見込まれます。また「デコスドライ工法施工数」は関連会社株デコスが供給する断熱工法で、新聞紙をリサイクルした多機能断熱材であるため2.4t/棟のCO₂削減が見込まれます。これらを加える事で、受注活動そのものがCO₂削減にダイレクトに繋がる、事業拡大と炭素集約化の進展が同軸ベクトル化した事業活動を行っています。



環境負荷・CO₂排出を抑制する技術施工と産業廃棄物の排出量



「エネルギー・ユーティリティ使用量とそれに伴うCO₂排出量」



— 社員1名当り
■ 年次使用量

1
OMXの採用拡大により1棟当たりのCO₂削減効果は向上傾向

OM1棟の太陽熱利用で1.1tのCO₂削減が見込まれます。現在はOM+太陽光発電のOMXがの採用比率が高まっており、その場合は更に大きなCO₂削減が実現しています。

2
 施工物件での採用率は堅調に推移し
 製品特性を活かした家づくりを進める

平成5年より全棟にデコスドライ工法による次世代基準並みの断熱性能を標準としています。現在ではC値=0.5cm/mの気密性能を持ち、断熱レベルをG2標準としています。

3
総排出量は現場数や解体案件に依存し、リサイクル率の更なる向上が重要

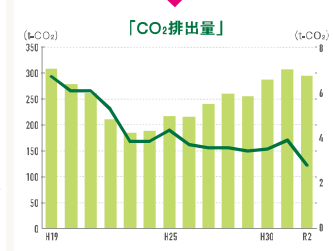
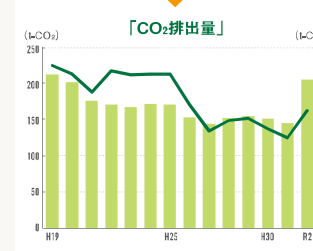
産業廃棄物は、在来工法のため削減が
厳しいのが現状です。事務所内はR3よ
りペーパーレスを開始しており、今後削
減が顕著となる予定です。

	単位	H16	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
従業員数	人	131	131	130	109	110	112	111	125	149	142	142	153	161	175
電力	使用量	[kwh]	430.436	416.849	363.509	355.266	350.374	356.419	355.078	320.422	298.394	319.427	323.648	312.365	299.353
	1人当たり	[kwh]	3.286	3.182	2.796	3.259	3.185	3.182	3.199	2.563	2.003	2.249	2.278	2.043	1.859
	CO ₂ 排出量 ^{※1}	[tCO ₂]	211.8	201.2	175.9	170.5	167.4	171.9	170.3	153.5	143.6	152.0	154.4	150.9	144.6
	1人当たり	[tCO ₂]	1.62	1.54	1.35	1.56	1.52	1.53	1.53	1.23	0.96	1.07	1.09	0.99	0.90
ガソリン	対象人数 ^{※2}	[人]	46	46	43	40	48	49	50	58	67	73	75	82	79
	購入量	[L]	132.692	120.479	112.632	90.888	79.345	89.600	93.545	104.953	103.318	112.541	110.207	115.642	118.552
	1人当たり	[L]	2.885	2.619	2.619	2.272	1.653	1.829	1.871	1.810	1.562	1.562	1.469	1.403	1.502
	CO ₂ 排出量 ^{※3}	[tCO ₂]	308.1	279.8	261.5	211.0	184.2	188.7	217.2	215.9	239.9	261.3	255.9	287.3	307.9
	1人当たり	[tCO ₂]	6.70	6.08	6.08	5.28	3.84	3.85	4.34	3.72	3.58	3.58	3.41	3.50	3.90
水道	使用量	[㎡]	1.493	1.488	1.583	1.416	1.412	1.392	1.381	1.314	1.233	1.484	1.371	1.414	1.794
	1人当たり	[㎡]	11.40	11.36	12.18	12.99	12.84	12.63	12.64	10.51	8.28	10.45	9.65	9.24	11.14
産廃	排出量	[㎡]	6.732	6.459	6.659	6.394	6.759	6.071	6.796	6.700	5.770	6.487	6.428	4.958	4.992
OM	施工棟数	[棟]	54	56	49	32	30	36	48	46	43	28	37	48	58
デコス	施工棟数	[棟]	130	113	105	87	70	77	107	91	90	96	109	103	90

※1) R03.D1.07に環境省・経済産業省が公表された温室効果ガス削減係数の基礎排出係数(中国電力0.000561・CO₂/kWh九州電力0.000344・CO₂/kWh)を基に算出しています。※2) ガソリン・カーディーゼル等 ※3) 環境省地球環境局「温室効果ガス総排出量算定方法ガイドライン」に基づき算出しています。

4
目標管理を行いPDCAサイクルが
うまく回っていると言える

電気、ガソリン、水道は年次の使用量に加え、社員1人当たりの数値を折れ線グラフで示しています。売上(業務量)の伸長に伴い使用量も増加しているものの、1人当たりの数値を見ると明らかに削減傾向にある事がわかります。



エコアクション21審査人からの声

(株)安成工務店は環境マネジメントシステム(EMS)を構築・運用し、総合建設業としての事業活動及び地域貢献活動を通じて、循環型社会の構築を推進されているところです。

活動内容は特徴的で「森林体験ツアー」、「工場見学ツアー」を開催して顧客及び地域の環境マインドの向上を推進すること、さらには「プレカット工場から排出される端材の木質ペレット燃料化」や「OMソーラーシステムの導入」などにより、資源及び再生エネルギーの有効利用に努めることなど、効果的な取り組みを実践していると評価されます。

省エネ活動についても地道な活動を継続することで、事業活動に伴う令和1年度の二酸化炭素排出量は、平成19年度と比較すると約13%の削減、従業員一人当たりの単原単位換算では約42%の削減と非常に大きな成果を上げています。これは、従業員が一丸となって様々な環境配慮活動に取り組まれた成果だと思います。今後もEMSの取組をより一層充実させ、環境配慮活動を継続することで21世紀の持続可能な社会の構築に貢献されることを期待します。

エコアクション21審査人 松本 昭喜

Key Performance Indicator

YASUNARIグループの

KPI

当社の取り組むべき社会的に重要な課題を明確にし、
実りのあるCSV・CSR活動するためにKPI(主要業績評価指標)』を
策定しております。KPIは毎年見直しを行い、時代の流れに沿った活動や
それに対する目標設定、年間の行動計画を立てております。

KPI…「Key Performance Indicator」の略称で、日本語では「重要業績評価指
標」と言われます。経営にはさまざまな種類の業績評価指標が使われます
が、KPIはその中でも「キー(重要な)」となる指標で、目標の達成に向かっ
てプロセスが適切に実行されているかどうかを計測する役割があります。

重点分野	自社目標設定活動	2030年目標値	達成に向けた具体的行動	重要業績評価指標	進捗管理組織	現状値	到達点・活動の評価軸				関連SDGs
						2020年実績	2021年	2022年	2023年		
環境保全	1 環境共棲住宅の導入拡大・推進	156 棟	健康で省エネ省CO ₂ 、バツンバな木の家の暮らしを効果的にPRし、販売促進に繋げる	該当住宅年間上棟数		89 棟	103 棟	120 棟	144 棟		
	2 国産材導入拡大	4,400 m ³	継続した国産材利用と、住宅販売増による	構造材・造作材における国産材利用量		2,358 m ³	2,800 m ³	3,300 m ³	4,000 m ³		
	3 建設廃棄物における脱プラスチックの推進	80 % (2026年達成)	産廃業者への働きかけ、工事現場での分別促進	建設廃棄物のプラスチック系廃棄物リサイクル率(年平均)		66 %	68 %	70 %	75 %		
	4 新たな素材(CNF等)・建材の採用や開発	全ての建材をCO ₂ 削減建材とリユースできる建材に置き換える	採用建材の脱プラスチックへの転換	脱プラスチック建材の導入数		現在多くの建材について自然素材を採用	2030年までに全ての建材をCO ₂ 削減建材とリユースできる建材に置き換える				
	5 住宅の高寿命化に向けた検討・活動	全て2022年達成 ①全棟長期優良住宅 ②全棟耐震3等級(許容応力度計算) ③全棟気密測定	耐震等級など住宅の長寿命化に関わる指標をクリアする家を全棟標準化する。	①長期優良住宅認定 ②耐震等級(許容応力度計算) ③気密測定の標準化		① 全棟 ② 未実施 ③ 5%	① 全棟 ② 35% ③ 9月より全棟	① 全棟 ② 70% ③ 全棟	① 全棟 ② 全棟 ③ 全棟		
	6 環境教育と国内林産地との連携強化	300 人 / 4 回	環境教育としての森林体験ツアーの継続的な実施および、地域の林産地・林政との連携	森林体験ツアーの参加者数/実施回数		46 人 / 2 回	120 人 / 4 回	300 人 / 4 回	300 人 / 4 回		
	7 自社の環境負荷低減活動 (エコアクション)	① 廃棄物: 5.5 t ② 排水量: 1.7 m ³ (2024年達成)	社員への啓蒙活動による日々の削減および設備改善等	① 廃棄物:t ② 排水量:m ³ (排出量/売上1,000万当たり)		① 6.2 t ② 1.83 m ³	① 6.0 t ② 1.8 m ³	① 5.8 t ② 1.8 m ³	① 5.5 t ② 1.75 m ³		
脱炭素	8 自社の温室効果ガス直接排出量削減 (省エネ・再エネ推進/Scope1・2)	電力: ①事業所 90 t (2)プレカト 45 t 燃料: ③全事業所 270 t	社員への啓蒙活動による日々の削減および設備改善、再生可能エネルギーへの転換	各事業所およびプレカト工場・電力によるCO ₂ 排出量・燃料によるCO ₂ 排出量		① 137.8 t ② 66.7 t ③ 295.5 t	① 130 t ② 60 t ③ 290 t	① 125 t ② 56 t ③ 280 t	① 120 t ② 50 t ③ 270 t		
	9 OMソーラー/OMX/ OMクワトロソーラーの普及	100 棟	OMソーラーのメリットを訴求、お客さまへ推奨し、OMソーラー搭載率を上げる。	各システム導入住宅数(合算)		50 棟	65 棟	75 棟	85 棟		
	10 省エネ住宅の提案・施工(ZEH)・HEAT20推進	①ZEH比率(2025年達成) 80 % ②HEAT20 G2レベル 100 % (6地域/2022年達成)	OMソーラーだけでなく、太陽光パネルの設置も推奨し、ZEH比率を高める。	① ZEH比率 ② HEAT20 G2レベル率(6地域)		① 47 % ② 未把握	① 50 % ② 7月以降全棟達成	① 55 % ② 100 %	① 65 % ② 100 %		
	11 セルロースファイバー断熱材の普及拡大	4,000 t	製造時のエネルギー負荷の少ない自然素材系断熱材の全国への普及を促進する。	年間総出荷量		3,066 t	3,150 t	3,300 t	3,500 t		

KPIに対する自己評価

安成工務店では「CSVレポート2016」発刊に際して、環境側面に加えて社会的側面・経済的側面にも目を向けた総合的なKPI指標を設定し、定期的に進捗を把握するとともに達成に向けた検討や活動を実施して参りました。

5年の時間が過ぎSDGsという共通の目標が示され、社会から持続可能性が強く問われる社会となりました。また、地球温暖化が原因と考えられる異常気象や我が国でも災害級と呼ばれる豪雨災害が後を絶たない中、パリ協定に基づき世界全体で脱炭素に

対する機運が大きく高まり、我が国でも2050年の実質ゼロ宣言が出される中で企業にも脱炭素に向けた取り組みが強く求められている点を感じています。RE100に取り組む企業が増えていることや家庭部門でも太陽光を中心に自家消費でエネルギーを賄う方が急速に増えてきています。

今回、これらの外部環境・社会課題の変化に対して、安成工務店・グループの提供価値を再考し、当社のKPIの設定内容について再度大きな見直しを行いました。

従業員の働き方改革やダイバーシティ推進など組織内の利害関係者にも配慮しつつ、熊本地震災害時の木造仮設住宅建設

への協力、そこから得られた経験を基にした災害に強い住宅・まちづくりの推進等を新たにKPIとして設計しました。

また、地域材を活用する地域工務店として、業界としていち早く取り組んで参りました国産材の木の家と健康の関係についてもより確かな情報を提供する為の研究を進めています。

シックハウス防止や快適な住環境実現に加え、住宅建設時のCO₂の発生量を把握し、その削減について努力すると共に、生活する上でのランニングのエネルギーを控え効率を向上させるという当社の事業領域における重要課題に対するKPI設計を行うことで、社会の持続可能性向上に貢献して参ります。

環境保全

環境保全分野では、当社の礎でもある環境共生住宅の推進、国産材を利用した住宅推進を継続して進めており、順調に推移しています。また、近年国際課題となっているプラスチック系廃棄物の排出抑制のために施工現場でのリサイクルは勿論、樹脂を利用した建材の可能な限りの利用抑制や代替技術の検討などを進めています。

更に住まいの耐震性の確保や長寿命化について取り組むと共に、これらの社員教育にも力を入れています。

重点分野						現状値		到達点・活動の評価軸			
自社目標設定活動		2030年目標値	達成に向けた具体的行動	重要業績評価指標	進捗管理組織	2020年実績	2021年	2022年	2023年	関連SDGs	
脱炭素	12 蓄電池、EVコンセント、V2H等、 電気自動車も含めたエネルギーの 有効利用又は蓄積システム搭載	2023年目標設定	電気自動車も含めたエネルギーの 有効利用又は蓄積システムの 標準搭載を検討する。	蓄電池、EVコンセント、V2H いずれかの搭載率		実績値か (目標未設定)	(目標未設定)	2022年後半より、 EVコンセントの 導入推進を開始	蓄電池、EVコンセント、V2Hの 導入目標を設定		
	13 自社住宅建築物のCO ₂ 排出見える化・ 削減への取り組み	28.70 CO ₂ -t/棟	工法・建材(産地)・設備等の 見直しにより、建築時のCO ₂ 排出量の 少ない家づくりを目指す。	イニシャルCO ₂ 排出量の把握 自社製造建材イニシャルCO ₂ 削減	  	31.89 CO ₂ -t/棟	工法・建材(産地)・設備等の見直しにより、 2030年までに2020年度比10%削減を目指す。				
ひと	14 大工育成・外国人・女性活用等 多様な雇用環境の形成	① 20名 ② 10名 ③ 40%	① 定期的な大工雇用、研修制度の拡充 ② 外国人の社内受け入れ態勢の整備 ③ 女性の働きやすい職場・制度づくり	① 社員大工数 ② 外国人従業員数 ③ 女性社員比率		① 5名 ② 3名 ③ 33%	① 7名 ② 3名 ③ 35%	① 10名 ② 5名 ③ 37%	① 12名 ② 7名 ③ 40%		
	15 社内人財育成・働きやすい環境形成	① 15年 ② 0%	各種研修制度、メンター制度の拡充、再 雇用制度の充実など、若手からベテラン 社員まで働きやすい労働環境をつくる。	① 社員平均勤続年数 ② 社員の喫煙率		① 10.3年 ② 9.5%	① 11年 ② 5%	① 12年 ② 0%	① 13年 ② 0%		
	16 環境・資源循環・脱炭素に関する普及啓発	1,000人/ 57回	家づくりを検討中の方だけでなく、地方自治 体・環境関連団体等、様々な研修希望者を 受け入れ、地域の環境学習拠点とする。	工場見学者数/回数 (プレカット工場・ デコス山口工場・関東工場)	 	264人/ 20回	300人/ 24回	670人/ 41回	720人/ 41回		
健康	17 木の家と健康・長寿の関係性の検証	30 社	自然素材の木の家づくりをする地方 の会員工務店仲間を増やす。	木の家の健康を研究する会の 会員社数		19 社	21 社	23 社	25 社		
	18 快適な住環境実現(吸音性・除湿躯体・呼吸する家)	2023年目標設定	セルロースファイバー断熱材を 使った、自然に除湿する躯体を 開発し、商品化・全国普及を図る。	研究プロジェクトの進捗有無	 	研究開始	実験棟建築検証	商品化	販売開始		
	19 シックハウス症候群の抑制	2023年目標設定	安成工務店の家の空気質を測定し、 安全性を検証する。	リスクの明確化と 対処方針の策定・実施		—	研究開始・現状把握	現状把握・除去方法検討	除去方法検討		
まち・コミュニティ	20 地域経済活性化、高齢者を含めた 暮らしやすさの実現に資する商業開発	31 か所 (150店舗)	地域性や社会性を考慮した個性を 持った商業開発を行う。	該当商業開発案件数		23 か所 (125店舗)	25 か所 (130店舗)	27 か所 (135店舗)	29 か所 (140店舗)		
	21 他社と連携した地方創生に向けた取り組み	1 40 社加盟 2 20 か所案件成立	公共と民間が連携し、地域課題解消 に繋げる取り組みを全国で行う。	① 地方創生街づくり ネットワーク加盟社数 ② PFI/PPP取組数		1 20 社加盟 2 2 か所案件成立	1 23 社加盟 2 5 か所案件成立	1 27 社加盟 2 7 か所案件成立	(1) 33 社加盟 (2) 10 か所案件成立		
	22 災害発生時の強靱なまちづくり・家づくり (レジリエンス/地域協定や被災地支援)	① 75 社 ② 50 社	山口県との災害時仮設住宅協定の締結 に基づき、応急仮設・応急修理に対応して いただける参加企業を増やす。	① 応急仮設参加会社数 ② 応急修理参加会社数		① 63 社 ② 40 社	① 65 社 ② 42 社	① 67 社 ② 44 社	(1) 70 社 ② 46 社		
	23 地域コミュニケーション(イベント参加など)	① 800 人/ 220 回 ② 2500 人/ 550 回	地域イベント・カルチャー教室を定期的に開 催し、地域コミュニケーション、地域住民の 交流拠点として利用してもらう。	イベント参加人数・実施回数 ① 安成工務店 ② ハウスドクター・山口	 	コロナ禍につき 設定不可能	コロナ禍につき 設定不可能	① 800 人/ 220 回 ② 2500 人/ 550 回	(1) 800 人/ 220 回 ② 2500 人/ 550 回		

脱炭素

住宅分野でも2030年までの意欲的な温室効果ガス排出削減目標が課せられる予定(2021年8月時点)であるなど、脱炭素への取り組みは切っても離せないものとなりつつあります。パッシブハウスのコンセプトを体現するOMソーラーをはじめ、安成工務店グループではこれまでも様々な取り組みを進めて参りました。ZEHを実現した住宅や高気密・高断熱性能を保有した家づくりを推進していくことで脱炭素社会の住宅をリードしていく存在となることを目指します。また、災害時のエネルギー・バックアップとしてのEV車両や蓄電池との連携など新しい家庭のエネルギー・マネジメントモデルにも取り組んで参ります。

ひと

ひと分野では、お客様との対話確保の全戸訪問や社員大工の育成、外国人材の受入育成などに力を入れています。新型コロナウイルス感染症拡大により海外との人材交流は難しい状況ですが、将来的には取り組みを拡大していく計画です。また、社内人財の育成や働きやすさ向上に向けてメンター制度の導入やビジネスアイデアコンテストの実施、他にも健康経営の取り組みを推進しており従業員が長く働ける環境の形成に力を入れています。

健康

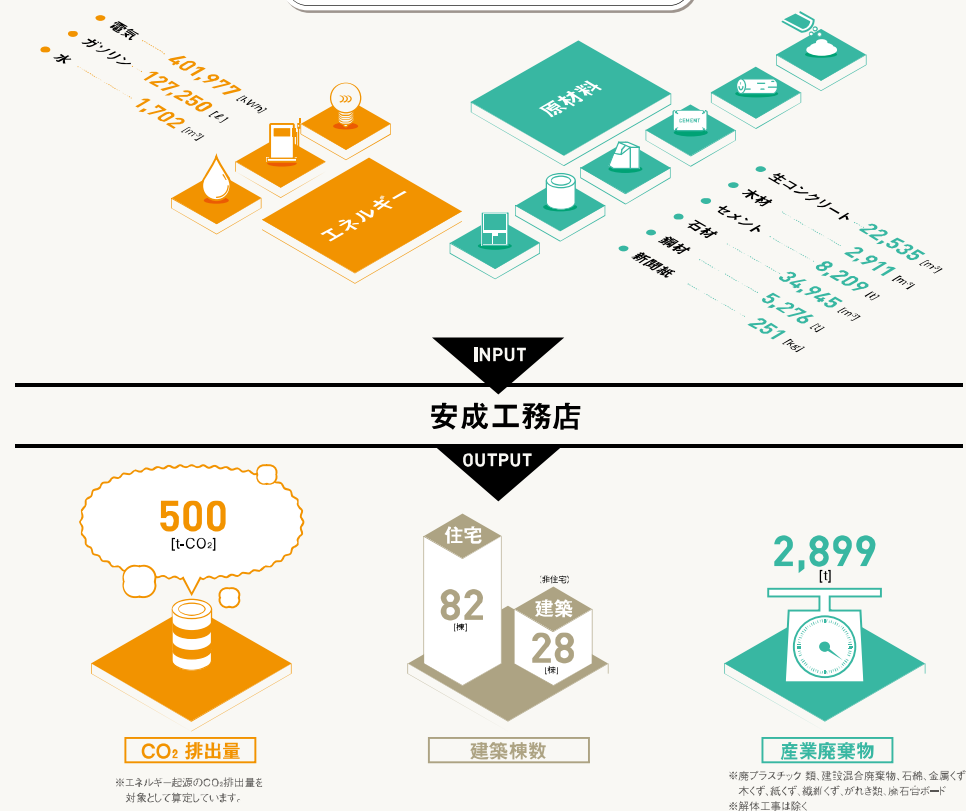
これまで様々な研究機関と国産材住宅における住まいと健康の関係について研究を重ねてきました。これらの研究成果を通じて、木の家に住むことで得られる健康改善・健康長寿効果が分かってきました。この成果を取り纏めて世の中に広げていくことが国産材住宅を推進する当社の使命と考え、社会的意義が高いと考える研究を継続するとともに、成果を分かりやすく伝える活動を続けて参ります。

まち・コミュニティ

安成工務店グループでは地域の課題解消やニーズに合わせたまちづくりを目指す商業開発に取り組んで参りました。高齢化社会がかつてない速度で進行する中で個性を持った街づくりを様々な利害関係者とともに取り組み、地方都市のまちづくりを再構築するだけでなく、新しい建設業の形を追求し、構築して参ります。また、災害に強いまちづくりについても地域との協定締結を通じて、工務店としてできることへ協力して参ります。

マテリアルバランス

集計範囲：2020年1月～12月



マテリアルバランスに対する自己評価

マテリアルバランスとは、事業活動で必要となる資源・エネルギー等のインプット量と生産製品・サービス提供料や廃棄・排出物といった環境負荷などのアウトプット量との関係性を示したものです。今回のレポートにおいては安成工務店を対象としたマテリアルバランスを記載しています。エコアクションのページ(P.93とP.94)において経年でのエネルギーの使用量を確認できますが、事業領域が拡大する中で従業員1人当たりでのエネルギー使用量は下がってきており、高効率化を進めながら環境負荷の最小化に取り組む

うとしている活動に一定の成果があると感じています。現在進めている住宅建設時のイニシャルCO₂排出量評価については、バリューチェーン上における各パートナーとの連携の下で進めていく必要があり、簡単な道のりではありませんが、今回、住宅新築時のイニシャルCO₂を計算する社内ノウハウを得たことで、これを更に削減する事や生活する上で発生するランニングCO₂とのバランスを計画する材料が揃いました。これから環境負荷の低い家づくり、地域に根差した家づくりを推進していくとともに、ゼロエネルギー建築の観点から少し立ち遅れている一般建築物にも波及させる取り組みを更に進めて参ります。

REVIEW

KPI進捗に対する内部・外部レビュー

Internal review

安成 信次

株式会社 安成工務店
代表取締役

5年前の「Yasunari group CSV Report 2016」の発刊時、その出来栄に満足をしたものの、今回見直す整理と表現方法に改めるべき箇所が随所にあり議論が白熱した。

新たに加えたSDGsの視点は後で触れるが、CSVの視点で見たとき、グループ会社や安成工務店の各事業部で、環境活動自体の濃淡がそのまま進化し、営業と直結し活発な活動を伴う事業はより進化し濃くなり、そうでない部署は薄いままとなってきたらいい。

より濃い活動成果を上げたことは大いに評価すべきだが、いまだ登場が少ない部署については5年間で進化してなかったことになる。

その差を考えると、最初から事業自体の立ち位置を環境活動とリンクさせてきた部署、若しくはその活動自体が営業活動と直結した項目は、時代や社会の要請に従ってますます濃度を増し高レベル化した事業活動となっている。

一方、建築事業部や商業開発など顧客の要望が経済合理性にあり環境活動が営業活動にリンクしにくく、二の次になりやすい事業部は濃度が薄いままである事に気づく。これらは環境活動の視点をもってダイレクトにコミットすると共に営業活動に繋がる視点で計画しなければ…。と思い至った。

SDGsの視点は数値化された義務を持たないためその表現は更に曖昧である。それぞれがこの視点で頑張っています。と言うにすぎない。だからこそ、数値を明示し目標を明確に表すと共に事業活動の進展の度合いと目標達成の度合いの連動性を計画し、自らPDCAサイクルを回し続けなくてはならないと思う。

私たちには30年取組んできた環境共生住宅があり、また10年以上取組んできたエコアクション活動がある。更には今回第2版を迎えるCSV&SDGsreportがある。これらをガイドラインとし、得た羅針盤を使って「より良い、あるべき社会」を求めて航海を続けていく。

External review

富永 聖哉

株式会社 ATGREEN
シニアマネージャー

「Yasunari group CSV Report 2016」の作成当時(2015年)は、SDGsとバリ協定が採択された世界のターニングポイントといえる1年でした。今やSDGsは数々のメディアや教育現場に取り上げられ、世界が抱える共通課題として多くの企業や組織が達成に向けた活動を推進しています。また、国内でも脱炭素化社会に向けた2050年目標達成に向け、安成工務店の社業である住宅・建築分野も最重要分野の1つとして具体的な施策の検討が進んでいます。

外部環境の劇的な変化の中、安成工務店ではCSVの理念を基に社会課題解消とビジネスの成長を両軸に据えた事業活動をこれまでも推進してきたことから、SDGsのゴールやターゲットと既存の事業活動をスムーズに繋げることが出来た点は一定の成果と考えられます。本レポート発刊に際して将来あるべき社会をイメージして数値・活動目標を見直しており、そこに基づく事業活動推進は、SDGsという壮大な開発目標達成に向けた確実な1歩となっていくでしょう。

各重点分野に目を向けると「環境保全」のように既存事業の強みを活かして更に意欲的な目標を立てる分野と地域課題とその解消を図る事業の在り方を検討していく「まち・コミュニティ」分野のように進捗にも濃淡があり、「脱炭素」や「健康」のように社会課題の拡大に応じて目標を再度設定した分野もあります。事業活動の礎となる「ひと」の育成・定着も重要です。真の意味で社会課題の解消を目指す事業活動を推進するには、多様なパートナーとの連携が重要であり、本レポートでのダイアログにおいても強く意識されていると感じています。

YASUNARIグループは、地域に根差した工務店・建設業者です。地域課題と向き合い、パートナーと連携した事業活動が、安成工務店グループらしい家づくりや事業拡大に必要です。本レポートにそれらの活動の足跡が刻まれています。あるべき姿の実現に向けたこれらの活動を応援します。

YASUNARI GROUP CSV×SDGs REPORT 2021

初版 2021年 10月 1日 発行
第2版 2021年 12月 1日 発行

— Publisher	安成 信次
— Editor in Chief	安成 信次
— Editors	安成工務店企画室 竹藤 勲 (安成工務店) 富永 聖哉 (ATGREEN)
— Art Direction	イシヤマグラフ
— Printing	編輯社写真印刷株式会社 有限会社 日高印刷
— published	株式会社 安成工務店 • 住所 〒751-0865 山口県下関市綾羅木新町3-7-1 • 電話 083-252-2419 • HP https://www.yasunari-komuten.com

本誌記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。© YASUNARI Co.,LTD. All rights reserved.

YASUNARI GROUP



CSV × SDGs REPORT 2021

株式会社 安成工務店
〒751-0865 山口県下関市綾羅木新町3-7-1
TEL 083-252-2419
WEB <https://www.yasunari-komuten.com>



PUR製本で作成しています。紙と接着剤が完全に分離するため、リサイクル適性も高く、日本印刷産業連合会の古紙リサイクル適性ランクリストではAランクに分類されています。



環境に優しい植物油インクを使用しています。

